

# 公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況について

平成 26 年 4 月～平成 27 年 2 月までの達成状況（中長期計画 29 ページから 30 ページ）

## 【3】 目標達成のための具体的な取り組み

### 1 民間的経営手法の導入

	目 標	取組の実施状況	自己評価
民間病院会計に準じた会計制度の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理会計による予算管理と経営分析導入</li> <li>・ 財務経理体制の強化と外部監査の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公営企業会計制度改定（企業会計に近づけた会計基準の見直し）に沿った準備を計画通り実施した。4 月より、会計システムの導入を実施し、財務・会計管理および事務の効率化がはかられた。</li> <li>・ 公認会計士から定期的な指導と今回の改定に対する指導援助を受けた。</li> </ul>	26 年度新会計制度の実施にむけた準備を計画とおりに実施
B S C の本格導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客、財務、業績プロセス、学習と成長の視点から目標管理、評価をすすめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の職場 B S C（バランス・スコアカード）を作成した。</li> <li>・ それを基に、系統的に目標の進捗率を可視化できる B S C づくりに取り組んでいる。</li> </ul>	BSC 導入および評価は計画とおりに実施

### 2 収入増対策

		取組の実施状況	自己評価
医師の招聘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医クラスの医師招聘</li> <li>・ 医師招聘プロジェクトチーム活動強化</li> <li>・ 研修医受入体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師招聘会議を毎週開催し、医師招聘の具体化を図った。</li> <li>・ 常勤医師については内科、整形外科、外科、小児科で各 1 名計 4 名の増員が図られた。</li> <li>・ 引き続き、福島医大各講座へ支援要請はじめ県外医師招聘に向け積極的に取り組んだ。</li> <li>・ 福祉医大臨床研究イノベーションセンターより月曜、金曜に各 1 名、火曜、木曜各 2 名計 6 名による総合診療科</li> </ul>	常勤医師の増員を図ることができた

		の支援をいただいております、内科系外来が充実した。	
DPC対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DPC/PDPS評価対策</li> <li>・医療情報管理室の機能強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月DPCによる経営指標を示している。</li> <li>・全国1,400施設以上の急性期病院で導入され、DPC病院間での比較検討を行い、経営改善の指標としている。</li> <li>・医療情報管理室は26年度複数体制とした。</li> </ul>	計画とおり実施
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病診、病病連携、地域連携パスの推進</li> <li>・医療・保健・介護・福祉とのネットワーク強化、連絡協議会の立上げオープンシステムの拡充と入院機能への特化</li> <li>・チーム医療による情報共有の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率目標（55%）40.6%（26年度4～2月平均）</li> <li>・逆紹介率目標（40%）47.3%（「」）</li> <li>・登録医数138（病院・診療所108 歯科医院30）</li> <li>・オープンシステム勉強会の開催を毎月定期的に実施。</li> <li>・国のすすめる地域包括ケアシステムに向け、院内に医療・保健・介護・福祉とのネットワークを考える研究会を引き続き毎月定期的に開催した。</li> <li>・10月18日この研究会で具体化した「認知症」講演会とシンポジウムを市の主催で開催、158名が参加した。</li> </ul>	紹介率は目標を未達成。逆紹介率は計画とおり目標達成 地域包括ケアシステムの対応について今後も取り組みを強化する

### 3 経費削減・抑制対策

		取組の実施状況	自己評価
人的資源の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員配置の適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新外来棟のオープンに伴い、新設した総合案内、入退院支援室、外来診察室の増加、新設の鍼灸治療室等の新機能を整備し、必要な人員体制の配置を実施した。</li> <li>・12月に日本医科大学と「看護師国内留学制度」協定を締結し、26年度より1名の看護師を救急医療分野の研修派遣している。</li> <li>・新外来棟での看護外来の充実 認定看護師の活躍、出前講座との連動</li> <li>・26年度手術室に事務1名を配置し、診療材料の管理</li> </ul>	計画とおり実施

		<p>体制を強化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26年度は高額手術（5万点以上）を中心に手術請求漏れ対策を実施し、200万円相当のチェックを実現した。</li> </ul>	
医薬品・材料費の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリック医薬品採用の促進</li> <li>医療材料費の部門別管理の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発品への変更を引き続き促進した。 採用品目 1440品中、後発品 181品</li> <li>後発品率（目標 9.0%）26年度実績 12.57%（平成 27年 2月末現在）</li> <li>代替品の採用による経費削減（消耗備品等）を実施した。 手術室等中心に 14品目約 247万円の削減を図った</li> </ul>	計画とおり実施
その他経費削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流管理システム体制の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気、燃料費の削減に向け管理を強化、経費削減を図った。</li> <li>新外来棟の完成により電気、燃料費の効率的な消費がすすみ、年間 454万円相当の省エネを実現した。</li> </ul>	左欄により実施

#### 4 その他

		取組の実施状況	自己評価
医師負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師事務作業補助者の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師事務作業補助者 13名を配置している。（緊急雇用対策事業を活用）</li> <li>4月より文書の2週間以内平均完成率 96.6%</li> </ul>	計画とおり実施
経営形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチームの立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務顧問を外部より招聘し、事務担当PTチームを立上げ、中長期計画が3年目に入り、外部環境および内部環境が変化等あり、中長期目標の進捗を調査した。</li> </ul>	引き続き課題への取り組みが必要

<p>広報活動の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の推進</li> <li>・ 親しまれるホームページを作成し、情報発信を強化</li> <li>・ 病院広報誌の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座を延べ4月より19回実施し、延443名が参加した。</li> <li>・ ホームページ改善は系統的に実施した。</li> <li>・ 病診連携で登録いただいている先生方を対象に「連携通信」の発行を平成26年4月より平成27年2月までに4号を発行、定期配布800部の他外来、入院患者さんに配布している。</li> <li>・ 広報活動強化の必要性について院内外から指摘されており、26年度は当院の特徴、強みなどより戦略的後方に留意し、重点的に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>計画とおり実施</p>
<p>患者満足度の持続的な向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア組織(病院友の会)の立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き新外来棟建設後も外来ワゴンサービスを継続的に運用、好評を得ている。(平成24年5月から)</li> <li>・ 患者会組織「友の会」現在会員108名。</li> <li>・ 新外来棟オープン以降も、午前中を中心に案内ボランティアに協力を得ている。</li> <li>・ さらに地域、患者さん、ご家族の意見を聞きながらサービス向上に努めていく。</li> </ul>	<p>計画とおり実施</p>

### オープンシステム

オープンシステムとは、患者中心の医療をすすめていくため、病院の施設・設備を地域の医師に開放し、各医療機関で診療中の患者さんをそのかかりつけ医と当院の医師が共同で診療にあたるというシステムをいう。

### 外来ワゴンサービス

外来患者さんの待ち時間対策の一環として御茶、水、新聞、雑誌などを直接、声をかけながら手渡ししているサービス。患者さんからたいへん好評で、午前中に実施している。クレームについても率直にお聞きし

対応している。

### DPC/PDPS

DPC/PDPSとは「Diagnosis Procedure Combination/Par-DiemPayment System」の略で、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者さんの病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分(投薬、注射、処置、入院料等)と出来高評価部分(手術、麻酔、リハビリ、指導料等)を組み合わせて計算する計算方式をいう。

## BSC (バランス・スコアカード)

バランス・スコアカードとは、アメリカ、ハーバード・ビジネススクールのロバート・S・キャプラン教授と経営コンサルタントのデビッド・P・ノートン氏が開発した経営管理手法。企業の業績（経営者の責任）をこれまでの定量的な財務業績からだけでなく、多面的に定義することが必要だとし、それらをバランスよくマネジメントするための手法として提唱された。

①財務②顧客③内部プロセス④従業員の学習とスキル、といった4つの視点で業績や成果が定義され、4つのバランスを保ちながら企業としての財務業績を伸ばすことだといわれている。

## 入退院支援室

入院や手術予定される患者さんや家族の方に、安心して療養生活できるように事前にご説明、援助を行います。また退院後の療養についても医師、看護師はじめケースワーカー、薬剤師、介護担当などがご相談に当り支援します。

## 日本医科大学と「看護師国内留学制度」

高度急性期医療を担う看護師としての知識及び技術を習得し、その成果を甲における医療活動の質的向上に寄与することを目的として、当院看護師が日本医科大学に留学する協定を締結、26年度より実施予定です。期間は1年間としています。

## 福島医大臨床研究イノベーションセンター

福島県や各市町村では健康長寿を大きな目標に掲げており、「寿命を延ばすこと」から、「寿命をいかに良く生きるか」が課題となっている。福島県立医科大学臨床研究イノベーションセンターは、治療より予防、

住民一人一人の行動変容、そして地域力の強化という新しいモデルを提示、この程須賀川市の健康長寿推進事業とタイアップし、その事業の効果をモニタリングし、科学的に評価、改善をすすめていく計画である。

また、臨床研究イノベーションセンターでは昨年度来、「臨床研究フェロシップ」という制度を開始し、県外の若手医師に福島に来ていただき、福島県民医療の支援を行うと同時に、十分な学習時間を確保しながら、未来の福島、日本の臨床研究を牽引するリーダーになっていくことをめざす事業に取り組んでいる。

9月1日より当院に総合診療医として、月曜、金曜に各1名、火曜、木曜に各2名の計6名の先生方に医療支援をいただいている。